

令和元年度秋田地域留学生等交流推進会議議事要旨

日時：令和2年1月10日（金）16:00-17:30

場所：秋田大学一般教育1号館2階会議室

議題1. 議長挨拶

議長の山本秋田大学長から、開会の挨拶があった。

議題2. 委員紹介

議長から配付の座席表を以って委員紹介とする旨発言があった。

議題3. 協議・報告事項

(1) 平成30年度決算報告

事務局から配付資料1に基づいて、平成30年度決算について報告があり、承認された。

(2) 秋田県内外国人留学生等の受入状況及び国際交流事業の実施状況

事務局から配付資料2～7に基づいて、秋田県内留学生の受入状況及び国際交流事業の実施状況について説明があった。

(3) 令和元年度留学生地域交流事業「第三の故郷を見つける農家民泊2019」の実施報告

秋田大学の市嶋准教授から、報告資料6に基づき、農家民泊事業について以下のとおり報告があった。

- ・今年度は台風により開催が延期となったが、アンケート集計表からもわかるように、留学生・農家の方たちからも、高い評価を得られた。早稲田大学・神田外語大学教員からの活動調査依頼もあり、持続性・内容の質、関係各所から高い評価を得られている。
- ・地域コミュニティのつながりを、より強める等、留学生のみならず、日本人学生や秋田の地域にとっても意味のある事業になっている。
- ・本事業は「公益財団法人中島記念国際交流財団助成による留学生地域交流事業」によって実施しており、今後も継続していきたい旨説明があった。

(質疑応答等)

ロータリークラブの佐藤裕之会長から、ロータリークラブでは様々な地元の国際交流活動に対して、財政面支援の仕組みが有るので、本助成金をご活用いただきたい旨発言があった。

ノースアジア大学の三浦薫准教授から、農家民泊に参加した日本人学生にとって、留学に対しての前向きな変化や成長が見られ、とても良い経験となった旨報告があり、留学生にとってのみならず、日本人学生にとっても、非常に素晴らしい経験であった旨発言があった。

(4) **構成団体による国際交流事業の実施状況及び協力連携**

各大学・高専より資料7及び資料8に基づいて、今年度の事業計画実施状況について報告があった。

【秋田大学】

小川信明国際担当理事から、秋田地域留学生等交流推進会議事務局として「第三の故郷を見つける農家民泊2019」の実施および推進会議 Facebook の開設について報告があった。また、秋田大学による実施事業として12月20日(金)実施の「日本のもちつき」について報告があった。イベントには国際教養大学・ノースアジア大学・秋田県立大学よりそれぞれ留学生1~2名が参加し、留学生・日本人学生・大学周辺町内会会員・教職員合わせて約100名が参加した。非常に盛況だったため、来年度以降も引き続き県内留学生から参加を募り開催したい。来年度は新規事業として「いぶりばでい」「アニメ・漫画をテーマとした交流事業(仮)」の開催を検討している。

【国際教養大学】

坂本好徳チームリーダーから、10月13日(日)実施の「AIU祭ガイドツアー」の実施について報告があった。申込があった秋田工業高等専門学校の学生3名が参加。英語でキャンパスツアーを行った。来年度以降実施の際は、イベント周知期間を長く設けたい。初めての試みだったが、有意義なイベントとして実施できたため、来年度も継続して開催したい。このツアーがきっかけとなり、ブルンジ出身の秋田高専学生と、同国出身の本学学生が交流する機会となった。

【秋田県立大学】

吉澤結子理事から、10月6日(日)実施の「松風祭ガイドツアー(秋田キャンパス)」について報告があった。秋田工業高等専門学校より2名、国際教養大学より1名の留学生が参加。秋田県立大学からは中国人学生2名、日本人学生3名がボランティアとして案内役を行い、留学生に研究室企画を見てもらう等、サポートをする側の学生にとっても良い経験になったと思われる。また、12月21日(土)実施のクリスマス・パーティー(本荘キャンパス)について報告があった。本イベントは、以前から教養大に声かけして行っていたもので、送迎バスを運行し、秋田大学より5名、ノースアジア大学より2名、国際教養大学より2名が参加した。なお、次年度以降は周知期間に余裕を持ち、より多くの学生に参加してもらえようようにしたい。

【ノースアジア大学】

三浦薫准教授から、本学で受け入れをしている留学生は、7~8名で推移しており、概ね国際観光学科に入学することから、日頃からフィールドワークでの観光地訪問、交流会での各国の料理作り、スピーチコンテスト、花見、なべっこ等の交流を行っている旨、学内での国際交流状況について報告があった。来年度は他大学の学生を招いての実現可能なイベントとして、来年度は料理教室・スピーチコンテスト等の実施を検討している。

【秋田工業高等専門学校】

武井由智教授から、秋田工業高等専門学校は7名の正規留学生、短期の留学生5名受入れ昨年度末さくらサイエンスプログラムで、9名の留学生の受入れを行っている旨報告があり、飯島地区の住人とのとの交流事業を行っている旨報告があった。来年度は「飯島コミセンまつり」「郷土料理と音楽の夕べ」の開催を検討している。

【秋田県】

企画振興部国際課畠山智課長から、今年度は留学生サポート事業を関係団体の事業に移行し、日中友好協会との連携事業等を実施した旨報告があった。また、大規模災害発生時には、秋田県国際交流協会と連携して設置する災害多言語支援センターを通し情報提供を実施している。

【秋田県国際交流協会】

町本智美事務局次長から、災害多言語支援センターによる秋田県および秋田県国際交流協会 Facebook での情報提供について、報告があった。秋田県国際交流協会は継続交流事業として「あきたのファミリー」（留学生向けのホームビジット）を実施しており、11月末現在で合計31名から申し込みがあった。「にほんごでおはなし」は1月10日現在で17名が申し込みしている（一般の方も若干名含むが大多数の登録が留学生によるものである）。また、2019年4月より秋田大学・国際教養大学でのオリエンテーション時にも、災害時の対応についての情報提供を行っている。多言語相談対応として毎週木曜日の午後に県国際課に所属する国際交流員が常駐し、協会の交流スペースを異文化交流サロンとして開放しているので、留学生も自由に参加可能である旨情報提供があった。

【秋田市】

企画財政部企画調整課都市間交流担当小杉山英克課長から、11月実施の「秋田市施設見学会」について報告があった。秋田大学より留学生12名が参加。土曜日で実施受け入れできる施設が少ない関係で、秋田城跡等の見学を実施した。来年度以降については、大学等より希望があれば検討の旨報告があったが、見学可能施設の都合により、平日の実施が望ましい。例年秋田市で開催している秋田市国際フェスタでは、姉妹都市を含めると17カ国の紹介を実施し、来場者数は昨年度比50名増加した。高校生ボランティア、（司会・各ブースでの通訳補助）・参加留学生からも、有意義だったという声が聞かれた。今後も関係団体の協力を得て行っていきたい。また、秋田市では日本語教室を開講しており、12月時点で16カ国62名が受講している。また、住民登録をする外国人の方に配布している「多言語パンフレット」ではゴミの出し方、消防・救急、相談窓口の案内等を継続して行っている。また、今年度の新しい取り組みとして災害時要支援対象者名簿（本人の希望で登録）に外国人の方も申し込みができるようになった。秋田市在住の外国人は昨年11月末現在約1500人、主な国籍は中国、韓国、フィリピン、アメリカである。

(5) 令和2年度事業計画(案)及び予算(案)

事務局より資料9に基づいて令和2年度事業計画(案)及び予算(案)の説明があり、審議の上了承された。

また、平成30年度に委員となった秋田公立美術大学が、令和2年度より事業費負担を行うことについて学内で了承されたことに伴い、事務局から資料10「秋田地域留学生等交流推進会議の事業費に関する申し合わせ」の一部改正案が審議の上了承された。

議題4. その他

ロータリークラブの佐藤裕之会長から、今年で8年目となる世界雪寄せ大会(主催:スポーツコンソーシアム秋田)について周知があった。

〔会議終了後 17:00～(於:秋田大学 大学会館1階イベントホール)〕

令和元年度秋田地域留学生等交流推進会議懇親会

本会議の終了後、推進会議委員と県内各大学の留学生との懇親会が開催された。冒頭、議長からの開会挨拶に続いて、参加した留学生31名から自己紹介があった。普段会う機会の少ない他大学の学生や教職員と大学の垣根を越え交流する機会となった。

以上